



「儲けようしない」「自利利他」のところが投資に利益をもたらす
 高いターンを求めない年輪運用
 日本でいちばん投資したい会社を
 目に見えない資産が貯蓄を超える存在を生み出す
 「1」としての投資のあり方
 投資の果ては

外資金融では出会えなかった

日本でいちばん投資したい会社

鎌倉投信(株) 代表取締役社長

鎌田 恭幸 YASUYUKI KAMATA

芳井 順一
 株式会社ツムラ 代表取締役社長

坂本 光司

「日本でいちばん大切にしたい会社」 著者

大絶賛!

国内投信
 第2位!

鎌倉投信がおこなう
 「いい会社」への投資で
 生き方、働き方、
 お金の使い方まで変わる!

* 概付投資情報センター(旧GSI)
 2011年4月末集計
 国内株アクティブ投信の実績

年輪運用で
 豊かな
 資産形成!

ACHIEVEMENT PUBLISHING



障碍者が一枚一枚点字を入れたエコ名刺
上：ペットボトルの再生名刺
下：バナナの茎の再生名刺

語をいまに伝える2大写本の1つ『河内本源氏物語』は鎌倉で完成した」という史実からもわかるように京の文化と融合した、とても雅な文化だったのです。

また、鎌倉時代は貨幣(宋銭)の流通が本格化し、物流が全国に整い始めた時期です。いまの為替のルーツは、御家人が年貢を受け取る際に発行された為替手形だとも聞いています。

平安時代の輸入文化と異なり、純国産の文化が花開いたのは、こうした経済や金融の発展と無縁ではなかったのではないのでしょうか。

政治や文化だけではなく、経済・金融の面でも歴史ある鎌倉の地で創業できたことに何かしらの縁を感じた催しでした。

エコ名刺の「わ」

鎌倉投信の名刺は、札幌にある丸吉日新堂印刷株式会社(以下、日新堂印刷)の「ペットボトルかバナナの茎を再生してつくる点字付き名刺」です。

日本で名刺は人と人のご縁を結ぶ大切なもの。鎌倉投信も会社名や肩書よりも自分たちの気持ちを感じ取っていただけの名刺をずっと探していたのです。面白いもので、多くの人は名刺を交換したとき、会社名や肩書をまず眺め、自分との間合いをはかろうとします。

しかし、鎌倉投信の名刺を手にした方がまず感じるのは、いままで受け取ったことのない名刺の手触り感です。

この名刺との出会いは、新井が屋久島で何気なく手にしたフリーペーパーでした。その片隅に小さく紹介されていた日新堂印刷の広告をたまたま目にしたのです。そこには「地球を救う7つのエコ名刺」の文字が

載っていました。投資先の会社を選ぶ際もそうですが、新井は必ず自分で見、聞き、肌で感じてから、ほんものかどうかを判断します。「たかが名刺一枚で？」と思われるかもしれませんが、わざわざ札幌まで日新堂印刷を訪ねて行きました。

そこで出会ったのが、日新堂印刷の阿部晋也社長と社員の皆さん。とてもお客様を大切にする方々で、リピート率90%以上という実績が、そのサービスの質を何よりも物語っています。

日新堂印刷は、途上国で伐採し不要になったバナナの茎でつくる「バナナペーパー名刺」や大量に廃棄されるトウモロコシの皮でつくる「とうきび名刺」などを独自に開発。とくに目を引いたのが「点字付き名刺」だったので。ペットボトルやバナナの茎を再生して名刺に変え、それに障害者の方が、1枚1枚点字をプレス機で打刻。更に1枚当たり1円を盲導犬協会、海がめ基金などへ寄付するというものです。

「障害者の個性を活かした仕事をつくりたい」という多くの人の思いから誕生したこの名刺を手にとると、今日も生き活きと日新堂印刷に商品を納品する障害者の笑顔が目に見えられます。

日新堂印刷は、バナナの茎を使った再生紙をアフリカのザンビアで生産し始めました。この支援を軌道に乗せるには5千人の名刺が必要です。いま、こうした志に共感するエコ名刺の「わ」が鎌倉投信のお客様のあいだでも広がりつつあります。投資や金融とは全く関係ありませんが、人と人とのつながりが社会を変えているエピソードです。

日新堂印刷は、『ちっちゃいけど、世界一誇りにしたい会社』（坂本光司著、ダイヤモンド社、2010年）でも紹介されています。ここは、間違いなく単なる印刷会社ではなく、「より良い出会いを創造する会社」です。物から心への時代変化を感じます。